

DV (ドメスティック・バイオレンス)とは

親しい男女の間で振るわれる暴力のことをドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。「なぐる」「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

DVの種類

身体的暴力

- 平手でうつ
- 足でける
- 腕をねじる
- 引きずりまわす
など

精神的暴力

- 大声でどなる
- なぐるふりをして脅される
- 何を言っても無視
- 交友関係や電話を細かく
監視 など

経済的暴力

- 家に生活費を入れない
- 必要なお金を渡さない
- 借金を負わせる
など

性的暴力

- 見たくないのにポルノ
ビデオやポルノ雑誌を
見せる
- 避妊に協力しない
など

なぜ被害者は逃げないのか

恐怖感

被害者は、「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖から、家を出る決心がつかないこともあります。



無力感

被害者は暴力を振るわれ続けることにより、「自分は配偶者から離れることができない」「助けてくれる人は誰もいない」といった無気力状態に陥ることもあります。



複雑な心理

「暴力を振るうのは私のことを愛しているからだ」「いつか変わってくれるのではないか」との思いから、被害者であることを自覚することが困難になっていることもあります。



経済的問題

配偶者の収入がなければ生活することが困難な場合は、今後の生活を考え逃げることはできません。



子どもの問題

子どもがいる場合は、子どもの安全や就学の問題などが気になり、逃げることに踏み切れないこともあります。



失うもの

配偶者から逃げる場合、仕事を辞めなければならないことや、これまで築いた地域社会での人間関係など失うものが大きいこともあります。



加害者の特徴

加害者については、一定の特徴はなく、年齢、学歴、職種、年収に関係がないといわれます。社会的地位が高く信用がある、あるいは穏やかで人当たりが良いなど、周囲の人からは「家で暴力を振っているとは想像できない」と思われている人もいます。

暴力を認めないまたは暴力を正当化する、暴力を被害者のせいにするなど加害者のタイプは様々です。

